

第3章

防衛力整備と予算

第1節 2025年度の防衛力整備の基本的考え方

わが国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しているという基本認識のもと、防衛力整備計画期間内の防衛力の抜本的強化の実現に向け、計画3年目となる2025年度においても、引き続き必要かつ十分な予算を計上した。

衛星コンステレーションの構築などによるスタンド・オフ防衛能力の強化など、将来の防衛力の中核となる分野をはじめとする、7つの重点分野を推進する。

特に自衛官の現下の厳しい募集状況にかんがみ、2024年10月に設置された「自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する関係閣僚会議」において取りまとめられた基本方針を踏まえ、人的基盤の強化にかかる施策に迅速に取り組む。自衛官であ

ること、また、自衛官であったことの誇りと名誉を得ることができるような、令和の時代にふさわしい処遇を確立していく。

また、装備品の可動数の向上、弾薬の確保とともに、防衛生産・技術基盤の強化を推進していく。さらに、防衛施設の強靱化への投資も引き続き重視するとともに、基地周辺対策を推進し、米軍再編を着実に実施していく。

具体的な防衛関係費の所要額については、次節を参照。

参照 図表Ⅱ-3-1-1 (2025年度防衛力整備の主要事業(防衛力の抜本的強化にあたって重視する7つの分野)、Ⅳ部(防衛力の中核である自衛隊員の能力を発揮するための基盤の強化))



資料：なぜ、防衛力の抜本的強化が必要なのか

URL：https://www.mod.go.jp/j/policy/agenda/guideline_whynew/index.html

図表Ⅱ-3-1-1 2025年度防衛力整備の主要事業（防衛力の抜本的強化にあたって重視する7つの分野）

<p>スタンド・オフ 防衛能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○12式地对艦誘導弾能力向上型の開発（地発型・艦発型・空発型）・量産（地発型・艦発型） ○潜水艦発射型誘導弾の開発・量産 ○島嶼防衛用高速滑空弾の開発・量産 ○島嶼防衛用高速滑空弾（能力向上型）の開発 ○極超音速誘導弾の開発・製造態勢の拡充等 ○JSM、JASSMの取得 ○衛星コンステレーションの構築 など <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">※いずれもイメージ</p>
<p>統合防空ミサイル 防衛能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○03式中距離地对空誘導弾（改善型）能力向上型の開発 ○SM-3ブロックⅡA、SM-6の整備 ○PAC-3MSEミサイルの整備 ○FPS-5、FPS-7の能力向上 ○移動式警戒管制レーダー（TPS-102）の取得 ○次世代JADGE（仮称）の整備 ○FCネットワークの整備 など <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
<p>無人アセット 防衛能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○UAV（中域用）機能向上型の取得 ○UAV（狭域用）の取得 ○小型攻撃用UAVの取得 ○滞空型UAV「MQ-9B（シーガーディアン）」の取得 ○艦載型UAV（小型）（6機）の取得 ○UGVシステムに関する研究 など <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
<p>領域横断 作戦能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次期防衛通信衛星の整備 ○次世代防衛技術実証衛星の開発 ○衛星妨害状況把握装置の整備 ○リスク管理枠組み（RMF）の実施 ○防衛省クラウド（仮称）基盤の整備 ○サイバー領域における意思決定支援システムの整備 ○ネットワーク電子戦システム（NEWS）（1式）の取得 ○24式対空電子戦装置（2式）の取得 ○艦載用レーザシステムの研究 ○電波情報収集機（RC-2）（1機）の取得 ○装輪装甲車（人員輸送型）AMV（28両）の取得 ○共通戦術装輪車（偵察戦闘型）（6両）の取得 ○固定翼哨戒機（P-1）（2機）の取得 ○回転翼哨戒機（SH-60L）（2機）の取得 ○救難飛行艇（US-2）（1機）の取得 ○護衛艦（3隻）、潜水艦（1隻）の建造 ○戦闘機（F-35A）（8機）、戦闘機（F-35B）（3機）の取得 ○戦闘機（F-2）の能力向上 ○次期初等練習機（T-6）及び地上教育器材の取得 など <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center; margin: 5px;">  <p>装輪装甲車 （人員輸送型）AMV</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;">  <p>共通戦術装輪車 （偵察戦闘型）（イメージ）</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;">  <p>新型FFM（イメージ）</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;">  <p>哨戒ヘリ（SH-60L）</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;">  <p>戦闘機（F-35A）</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;">  <p>戦闘機（F-35B）</p> </div> </div>
<p>指揮統制・ 情報関連機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指揮統制機能の強化 ○情報収集・分析等機能の強化 ○認知領域を含む情報戦などへの対応 など <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>APNの整備 （イメージ）</p> </div> </div>
<p>機動展開能力・ 国民保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○空中給油・輸送機（KC-46A）（4機）の取得 ○中型級船舶（LSV）・小型級船舶（LCU）・機動舟艇の取得 ○多用途ヘリコプター（UH-2）の取得 ○民間輸送力活用事業（PFI船舶） ○各種トラックの取得 など <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">   </div>
<p>持続性・強靱性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的な部隊運用に必要な各種弾薬の取得 ○装備品等の維持整備 ○火薬庫の確保 ○自衛隊施設の抗たん性の向上 など <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">   </div>